

町政を問う!!

10 議員が質問・提案を

漁業振興

未来を見据えた取り組みを効果的な施策を図る



議員 奥本 哲也

問 令和3年度から今日までの魚種別、魚種別に成果を分析し、これからの課題をどう捉えているか問う。

答 今西海洋森林課長 町内漁港水揚げ量は、カツオが11月末時点で、前年比量で29%、金額で63%。赤アマダイが量で370%、金額で400%。イセエビが量で110%、金額で175%。モジャコ養殖業が金額で218%の実績になって

かず、長期化が見込まれる経済情勢と捉えている。来年度以降の国のエネルギー施策が現時点では不透明であり、今後の対応は国の動向を注視しつつ、具体策を検討していく。

後継者問題も引き続き漁業就業支援センターと情報共有を深め、新たな就業者確保に向け今後もしっかり組んで行く。

これからも地元漁業の声や水揚げ高の動向、魚価の推移や必要とされる経費の高騰など、さまざまな角度より検討を行い、より効果的な施策を図って行く。

問 「海業」という言葉があるが、当町としての取り組みは。

また、カツオについては全国的な取り組みが必要に思うがどうか。

答 今西海洋森林課長 ウィズコロナ、アフターコロナの状況を見据えた、新たな水産業への取り組み、漁業資産を活



町内で水揚げされたカツオ

かした活力の1つとして、今後積極的な事業展開が求められている。漁村の営みを守り育て、持続的な発展を進めて行く中で、新しい産業、トータルでの海業の中身より、多様な施策について今まで以上に検討を進めて行く。

答 門田産業推進室長

海業とは、地域資源の価値や、魅力を活かした漁業等の取り組みだと捉えている。観光部局として、如何に誘客を図ることはできないかと思う。夏場はホエールウオッチング、冬場は船釣り、磯釣り、そういった遊漁船を町がアピールすることで観光体験メニューが充実して行くのではないかと考えている。



町内に水揚げされたノドグロ

しかし、経費全般の高騰が現段階では予想がつ